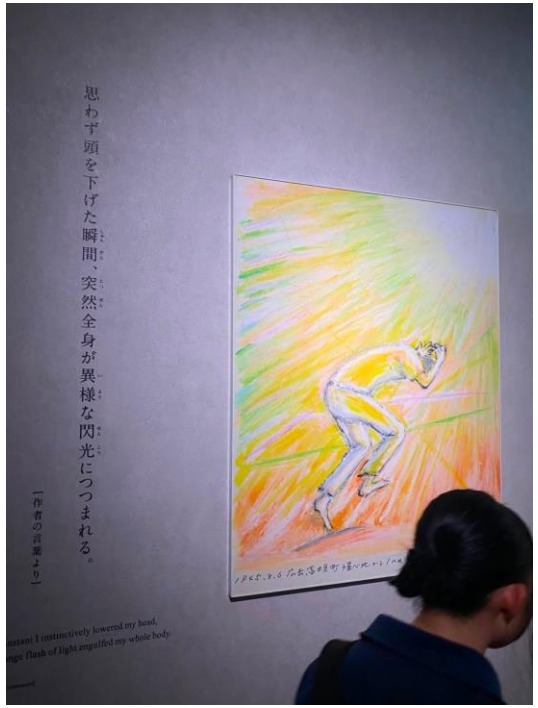
３班　平和学習成果発表

３班グループメンバー

・明科中学校　　山下　桜生
・穂高西中学校　中村　優佑
・三郷中学校　　小松　朋矢
・穂高東中学校　濱　明衣紗
・豊科北中学校　加藤　結
・豊科南中学校　遠藤　優月
・堀金中学校　　本郷　友萌

松本大学　平和創造研究会　岡田　真珠

グループの学習テーマ
『原爆の絵などの記録物と、実際の比較』





グループで設定した学習の着眼点

① 資料館での実際の写真と絵の比較

② 絵から分かる被爆者の想いや気持ち

③ 原爆が落ちた時の広島の様子と現在の広島の様子の比較

見学の様子

- 原爆ドーム
- 原爆の子の像
- 広島平和記念資料館
- 被爆体験記朗読会への参加
- 令和８年度第２回全国こども平和サミット「はっぴーす！」への参加







等

記録物の特徴

- 絵の方が地獄っていう感じがした。
- 原爆詩を実際に読んだ時、詩の言葉を通して、原爆の悲惨さが想像できた。
- 被爆した人の心の叫びが伝わってくるような感覚。
- 絵は気味が悪い。
- 当時の生々しい様子がダイレクトに伝わってくる。

単なる被害の記録ではなく、被爆者本人の目線で、その時、その場所で体験した記憶や恐怖、感情が鮮烈に表現されている



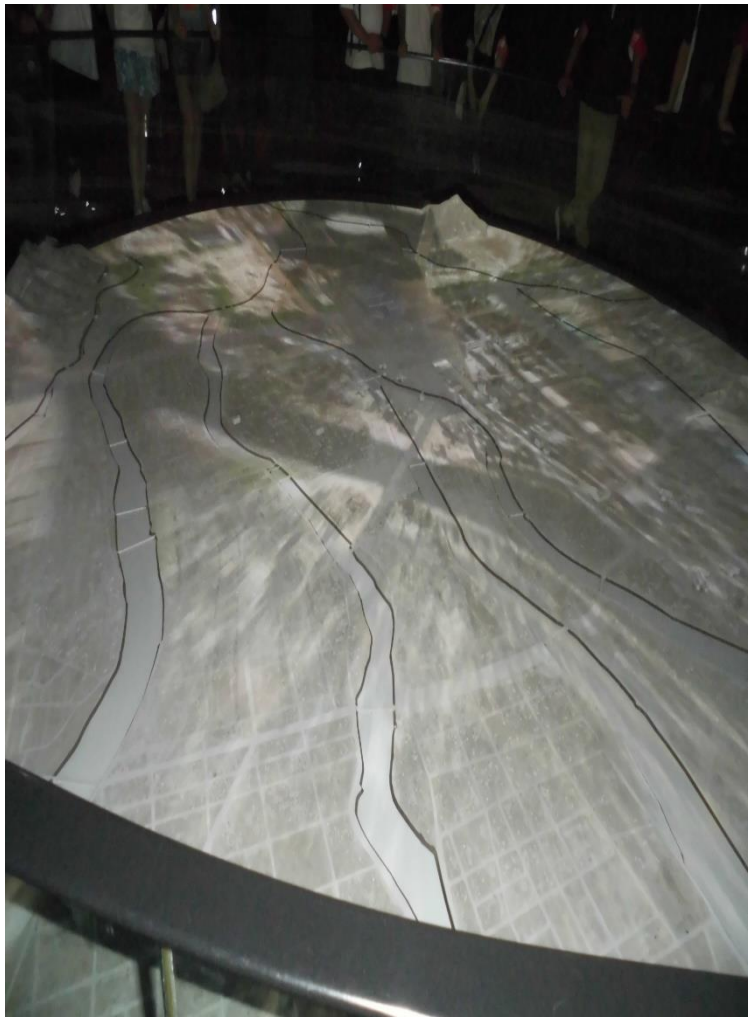
原爆詩
げんしばくだん
坂本はつみ(比治山小三年)

げんしばくだんがおちると
ひるがよるになって
人はおばけになる

写真の特徴

- 原爆が落ちた時のCG映像からまち全体が一瞬にして覆われた。
- 原爆が落ち、多くの人々やものが破壊された現実が残っている。

第三者から見た客観的な被害の事実をあらわす





写真や絵などから得られる効果

- 原爆や戦争の悲惨さを伝える手段
- 記録としての平和への抑止力機能
- 記録物が今は無き声の代わりとなり、事実や意志、想いを伝える





原爆が落ちたときと現在の広島

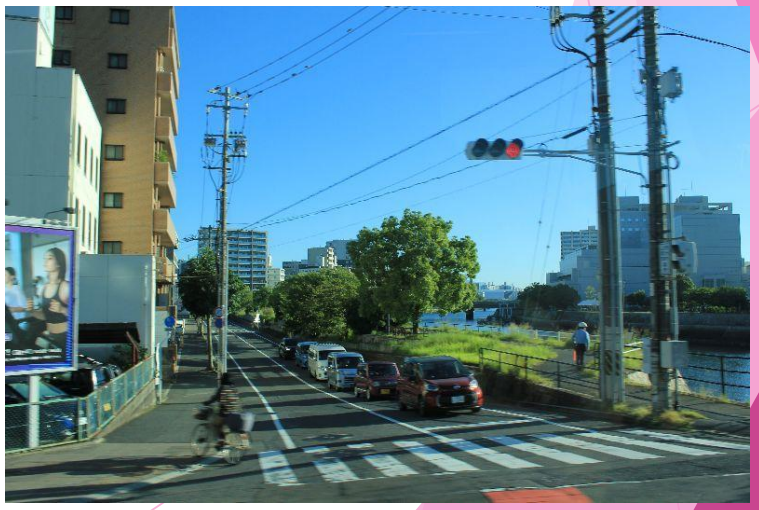
原爆が落ちた時(1945.8.6)



81年が経過

現在の広島(2026.8.6)





実際に広島を訪れて、原爆で壊されてしまったまちが、今は緑の多い平和記念公園になっていることから、広島の人たちが苦しみを乗り越え、平和を伝えようとしている気持ちが感じられた。

これからの私たちに
できること・伝えたいこと

できること

- 平和学習で学んだことを、身近な人や次の世代へ発信していく。
- どうすれば平和が実現するのかを考える。
- 後世に向けて伝えようとした人たちの思いを受け継ぐ。

伝えたいこと

- 戦争や原爆のことを決して他人事とは思わずに、自分事として考えてほしい。
- 教科書だけでなく、自分の目でも見るべきだ。
- 学校に通えることは当たり前ではない。

感想（グループ全員）

- 当時被爆された方の平均年齢は80代半ばを超え、直接お話を聞いて学べる機会は限られてきています。だからこそ、今回学んだことを風化させず、次の世代へしっかりと語り継いでいかなければならないと思います。(明科中　山下桜生)

- この平和学習を通して、様々な戦争の悲惨さを知ることが出来ました。また、教科書で見るものより、より詳しく、深く知ることが出来ました。そして、大きく違う印象を受けました。これから先、このことを多くの人に伝えられるように生きていきたいと思いました。(三郷中　小松朋矢)

- 平和記念式典参加事業に参加して、たくさんのことを学ぶことができ、考えを深めることができました。被爆者の方々の実際の声や学校の授業だけでは習うことのできない悲惨さが学べました。(穂高西中　中村優佑)

感想(グループ全員)

- 平和記念資料館で原爆の悲惨さを目の当たりにし、黙祷の静けさと、活気にあふれる広島のまちを見て、平和の尊さと、人々が悲しみを乗り越えて歩んできた力強さを感じました。(穂高東中　濱　明衣紗)

- 今当たり前の日常が奪われていないことも平和ではないかと、今まででは思いつかない視点から平和を見つめ直すことができました。(豊科北中　加藤　結)

- 私は、今回の平和学習で実際に広島を訪れ、原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さを肌で感じることができ、当たり前にある日々をもっと大切にしたいと思いました。広島で起こった悲惨な歴史を「過去の遠い出来事」で終わらせるのではなく、これからの未来に伝え続けることが必要だと思います。私自身も戦争について学び続け、平和について考えていきたいです。(豊科南中　遠藤　優月)

- 自分自身が思っているよりも、実際は残酷で、もっと「平和」について沢山知ろうと思いました。簡単に考えるのではなく、もう少し重く考えていきたいです。(堀金中　本郷友萌)

ご清聴ありがとうございました